

第2節 基礎的調査

I 土地利用・社会・経済的状況

糸長浩司¹⁾・橋本忠義²⁾・奥村玄³⁾・關正貴¹⁾

Landuse and Socioeconomic Situation

Koji Itonaga, Tadayoshi Hashimoto, Gen Okumura & Masataka Seki

要約

丹沢大山地域の8市町村での土地利用、人口、経済の動向を既存資料により解析した。本地域は県土の約3割、森林面積の約7割を占める山間地域である一方で、厚木市、伊勢原市、秦野市等の都市化圧力が高まる地域でもある。急激な都市化で人口増加の進んだ地区のある一方で、人口減少のある山間地区もある。産業は、都市化地域での発展が顕著であるが、農業の衰退傾向、耕作放棄地の増加、農家林家数の減少が進み、第一次産業の活性化が厳しい状況にある。また、観光客数は本地域の全盛期では1300万人を超える状況であったが、近年は1200万人程度での横ばい傾向にあり、かつ、宿泊客が減少し、日帰り客が増加する傾向にあり、観光経済の構造に変化が生じてきている。

1. 調査地区の市町村の概要

対象区域は、丹沢大山地域を構成する秦野市、厚木市、伊勢原市、足柄上郡の松田町と山北町、愛甲郡の愛川町と清川村そして津久井郡津久井町の3市4町1村である。平成16年10月1日現在の行政区域名面積によると丹沢大山地域は、「神奈川の屋根」と呼ばれる丹沢山地を中心に東西42km、南北30kmに展開し、その区域面積は全体で743.03km²あり、県土面積の30.8%を占めている。

表1. 市町村別面積

市町村名	行政区域名面積 (km ²)	県全体に占める割合 (%)	出典・備考
秦野市	103.61	4.3	平成17年度 県勢要覧
厚木市	93.83	3.9	
伊勢原市	55.52	2.3	
松田町	37.75	1.6	
山北町	224.7	9.3	平成16年 10月1日現在
愛川町	34.29	1.4	
清川村	71.29	3	
津久井町	122.04	5.1	
丹沢大山地域	743.03	30.8	
神奈川県	2,415.85	-	

2. 土地利用

(1) 土地利用の現況

丹沢大山地域の区域面積は743.03km²あり、土地利用の特徴は全体の68.6%近くを占めている森林面積があげられる。県土に占める森林面積の合計94,723ha(39.2%)に比較して、丹沢大山地域での森林面積は51,008ha(68.6%)と高く、県全体の森林の半数以上が、丹沢大山地域の8市町村に集中していることがわかる。また、丹沢大山地域の森林区域は、地形が急峻で多様な自然と固有な景観を保持している。丹沢大山国定公園と県立丹沢大山自然公園に指定され、林業としての利用のほかに登山や沢登り、キャンプ、自然観察などで多くの人に利用されている。

丹沢大山地域の農地は、山間地を含む地域であることから全体面積の6.8%と極めてわずかである。全体に傾斜地形が多いことから水田(1.7%)は少なく、畑地(5.2%)が多いといえる。これらの土地利用に、水面(1.2%)、河川・水路(2.7%)を加えた自然的土地利用の面積割合は79.4%にもなる。逆に道路や宅地などの都市的土地利用の占める割合は12.6%であり、丹沢大山地域は自然的土地利用の地域である。

8市町村別に土地利用の地域特性を見てみると、森林面積の割合の大きいのは、山北町(89.8%)、清川村(89.1%)そして津久井町(81.9%)である。面積規模は小さいが割合が大きいのは松田町(75.2%)である。

農地の割合が大きい順は、伊勢原市(21.4%)、厚木市(13.3%)、秦野市(12.6%)、愛川町(10.4%)である。その内、水田の占める割合が大きいのは、伊勢原市(7.8%)、厚木市(5.9%)である。宅地の割合が大きいのは、厚木市(24.2%)、愛川町(18.2%)、伊勢原市(17.6%)、秦野市(16.5%)である。農地割合による地域特性は、そのまま宅地をはじめとした都市的土地利用の傾向に類似し、一群の地域特性のまとまりがみられる。河川・水路の占める割合が大きいのは、厚木市(9.5%)と愛川町(7.3%)である。

丹沢大山地域全体に占める市町村の割合

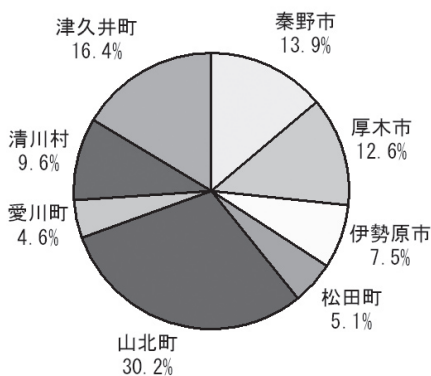


図1. 市町村別面積比率

1) 日本大学生物資源科学部 2) 農村都市計画研究所 3) GEN プランニング

(2) 土地利用の変化

昭和40年から平成12年までの35年間の地目別土地利用

用の推移をみると、丹沢大山地域全体で減少傾向にあるのは田と畑、山林である。これら自然的土地利用のうち、46.9%から41.2%と変化がわずかなのは山林である。逆に減少が激しいのは田と畑で、それぞれ10.9%、27.6%のものが5.5%、18.7%となっている。これは、農家の高齢化、農家数の減少、都市化などに伴う耕作放棄、農地転用による農地面積の減少によるものと考えられる。一般に昭和40年代末頃より、住宅地は増加傾向に入り、農地あるいは一部山林に宅地転用が進み、宅地の割合を大きくしていった。この宅地化の動きは、丹沢大山地域全体のどの市町村にもみられる。

これらの推移を市町村別にみると、山林が占める割合が変わらないのは山間地域にある山北町と清川村、津久井町である。昭和40年で農地の割合が地域の平均を超えているのは、地理的条件を同じくしている秦野市、伊勢原市、厚木市、愛川町であり、それに近いのは津久井町である。平成12年になるとこれらの地域は、そのまま宅地割合の増加が著しい地域となっている。これらの地域に共通している点は、地形条件と共に都心に近接していることがあげられる。

(3) 土地利用変化からみた都市化状況

丹沢地域8市町村の1976～1997年の土地利用変化をGIS（地理情報システム）で分析すると、宅地化は3792haで、厚木市が39%で秦野市、伊勢原市と続く。宅地化されたのは農地が56%、林地が34%である。愛川町、津久井町、山北町、松田町、清川村等の山麓地域の町村でも100ha前後の林地が宅地に変化し、平地の農地だけでなく、山際の住宅地化による都市化も丹沢地域の特徴である。

(4) 丹沢大山国定公園内での土地利用変化

丹沢大山国定公園は、特別保護地区、第1種特別地域、第2種特別地域、第3種特別地域に分けられる。1976年

～1997年での宅地への改変状況を見ると、第2種特別地域で1ha、第3種特別地域で41haの宅地への土地利用改変がみられた。その他（荒地）への改変状況を見ると、特別保護地区内では65ha（3.5%）、第1種特別地域は26ha（1.3%）、第2種特別地域は46ha（0.9%）、74haと面積的に最も荒地化している第3種特別地域は74ha（0.4%）の改変であり、特別保護地区内での荒地への改変率が高いことが伺える。

3. 人口

(1) 人口・世帯数・1世帯当たり人員の推移

丹沢大山地域は、秦野市、厚木市、伊勢原市を中心都市とする約60万人が居住する地域であり、県人口の7%を占めている。市町村の昭和40年から平成12年のデータの推移から地域比較をみると、人口においては、厚木市、伊勢原市、愛川町、秦野市の順に、190%～250%程度の大規模な増加率が見られる。これらは、都市化の進展による人口急増である。中でも愛川町は昭和41年に内陸工業団地（234ha）の完成後、企業進出や春日台住宅団地の造成により急速に市街化が進んだことによる。その他の市町村では、松田町（12.6%）、清川村（22.9%）、津久井町（124.3%）において増加があり、一方で山北町（-10.7%）のみに減少が見られる。平成12年の1世帯当たり人員は、丹沢大山地域の平均は県平均2.53人に対して2.91人であり、地域内での比較では、山北町、愛川町、清川村、津久井町が平均をうまわまっている。

(2) 年少人口、生産年齢人口、老年人口構成比の推移

丹沢大山地域の年齢別の構成比について、平成12年現在でみると、それぞれの人口構成比は県全体と類似するが、老年人口の推移の変化には、若干のひらきがみられる。昭和40年から平成12年のデータの推移をみると、8市町村全てが少子高齢化の傾向にある。年少人口の推移は、秦

表2. 昭和40年（1965年）地目別土地面積

市町村名	田 (ha)	畑 (ha)	宅地 (ha)	鉱泉地 (ha)	池沼 (ha)	山林 (ha)	牧場 (ha)	原野 (ha)	雑種地 (ha)	合計 (ha)	出典・備考
秦野市	230	1,459	1,532	0	1	1,236	—	143	483	5,085	H12(2000年)市町村課調 ※非課税地積を除く
厚木市	582	950	1,984	0	0	1,493	3	35	882	5,929	
伊勢原市	462	922	919	—	1	596	—	83	332	3,315	
松田町	16	229	138	—	—	632	—	33	124	1,172	
山北町	48	431	180	0	—	2,808	29	256	193	3,945	
愛川町	76	390	564	—	—	891	—	17	302	2,240	
清川村	12	56	43	—	—	1,479	—	55	71	1,716	
津久井町	29	552	353	—	—	1,860	—	197	294	3,285	
丹沢大山地域	1,455	4,991	5,714	0	2	10,994	32	818	2,681	26,687	
神奈川県	5,621	21,039	56,172	0	11	30,711	32	2,119	12,177	127,881	

表3. 平成12年（2000年）地目別土地面積

市町村名	田 (ha)	畑 (ha)	宅地 (ha)	鉱泉地 (ha)	池沼 (ha)	山林 (ha)	牧場 (ha)	原野 (ha)	雑種地 (ha)	合計 (ha)	出典・備考
秦野市	230	1,459	1,532	0	1	1,236	—	143	483	5,085	H12(2000年)市町村課調 ※非課税地積を除く
厚木市	582	950	1,984	0	0	1,493	3	35	882	5,929	
伊勢原市	462	922	919	—	1	596	—	83	332	3,315	
松田町	16	229	138	—	—	632	—	33	124	1,172	
山北町	48	431	180	0	—	2,808	29	256	193	3,945	
愛川町	76	390	564	—	—	891	—	17	302	2,240	
清川村	12	56	43	—	—	1,479	—	55	71	1,716	
津久井町	29	552	353	—	—	1,860	—	197	294	3,285	
丹沢大山地域	1,455	4,991	5,714	0	2	10,994	32	818	2,681	26,687	
神奈川県	5,621	21,039	56,172	0	11	30,711	32	2,119	12,177	127,881	

■土地利用
宅地への改変状況(1976年～1997年)

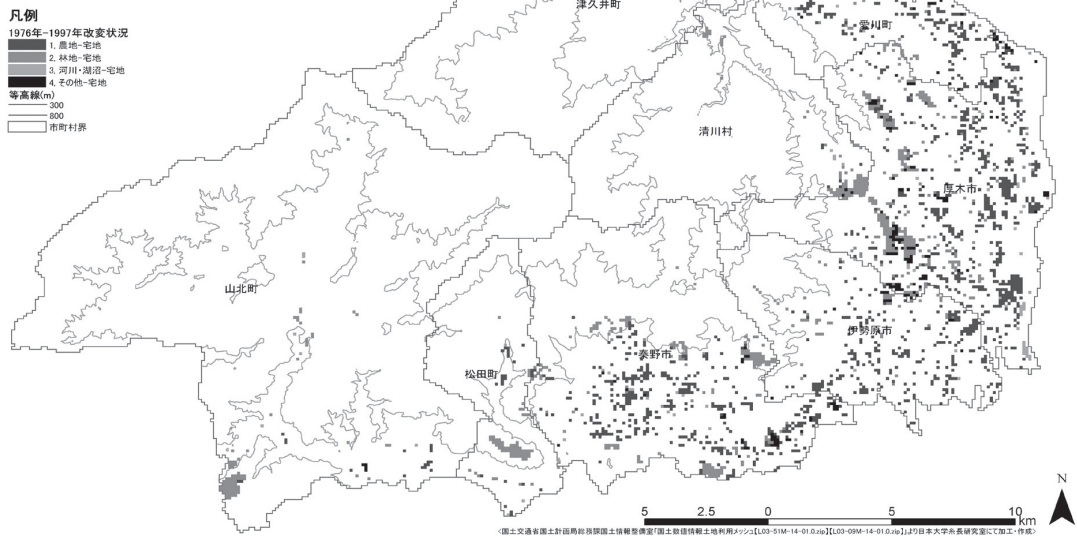


図2. 土地利用の宅地化状況(1976年～1997年の推移)

野市, 厚木市, 伊勢原市, 松田町, 山北町, 津久井町で, -40%台の減少がみられ, その他の市町村では, 愛川町(-37.4%)の減少率が若干低く, 逆に清川村(-59.5%)が最も高い値となっている。生産年齢人口の推移は, 清川村(17.6%)が最も増加率が高く, 減少は, 松田町(-1.8%), 山北町(-1.2%)である。一方, 老年人口については, 松田町(217.6%)が最も増加率が高く, 次に山北町(177.6%)が高い値を示している。比較的低いのは, 愛川町(56.4%)と清川村(66.6%), 津久井町(50.3%)で, それ以外は平均に近い90%以上の増加率となっている。

(3) 人口密度

人口密度は, 人口の増加数や第1次産業就業者数, 老年人口比率, さらに土地利用状態などと相関が高い。県の人口密度は, 昭和40年で1,865.9人/km²であったものが平成12年には3,514.9人/km²となっている。一方で丹沢大山地域では, 281.6人/km²から770.9人/km²となっているが, その増加率は県の倍となっている。8市町村別に人口密度の高い順に見ると, 厚木市, 伊勢原市, 秦野市, 愛川町, 松田町, 津久井町, 山北町, 清川村であり, この順は昭和40年より35年後の平成12年においても変わっていない。増加率において, 第一位の厚木市はこの間で250.4%と極めて高い増加率を示し, 人口密度は4倍で2,317人/km²となっている。それに続く伊勢原市, 秦野市, 愛川町の人口密度は, それぞれ平成12年でともに1,200人/km²を超え, 南東部での都市化の進展を示している。この期間での山北町は, 逆に僅かながら減少している。

(4) 昼夜間人口比率

平成12年での丹沢大山地域に常住している15歳以上の就業者と通学者の合計は, 501,869人で県全体の約12%である。昼夜間人口比率の平均は90.5%である。8市町村別にみると, 地区外通勤・通学を受け入れている唯

一の都市(昼夜間人口比率116.6%)厚木市を除く, 他の市町村全てで昼夜間人口比率は100%以下であり, 地区外に通勤・通学して, ベットタウン的な都市化の進展が進んできている地域であるといえる。

(5) 産業別人口割合

15歳以上就業者産業別割合を昭和40年から平成12年のデータの推移を見ると, 丹沢大山地域では, 第1次産業は8市町村すべてで激減し, 第2次産業は横ばい, 第3次産業は増加している。県全体では, 第1次産業は同じ率で, 第2次産業の減少が大きく, 第3次産業の増加率は低い率である。丹沢大山地域の中で, 第1次産業の減少率が平均よりも低いのは松田町(-76.4%)と山北町(-70.9%)で, その他の市町村は平均以上の減少率である。第2次産業は, 厚木市, 伊勢原市で減少が見られ, 特に厚木市(-23.7%)は大きな減少を示している。秦野市, 松田町, 山北町, 愛川町, 清川村では, ほぼ横這い, 津久井町が31.1%の増加である。第3次産業は8市町村すべてで増加している。そのなかでも増加率が最も高いのはダム建設の影響による清川村(109.7%)である。次いで厚木市, 愛川町, 伊勢原市が続きともに70%を超えている。一方で, 平均以下の増加率を示しているのは, 残りの市町村で秦野市(45.0%)と山北町(39.8%), 津久井町(59.9%), そして最も低いのが松田町(25.1%)である。

4. 産業

(1) 事業所

県内の事業所数及び従業員数は, これまで増加を続けてきたが平成13年において初めて減少に転じている。それに比べ丹沢大山地域では高い増加率を示している。昭和41年から平成13年の推移を見ると, 丹沢大山地域では事業所数は232.2%, 従業員数は362.9%でともに増加している。それらを県全体に占める丹沢大山地域の事業所数及び従

業員数の割合でみると、それぞれ昭和41年で4.8%、3.8%であったものが平成13年では7.9%、9.2%となっている。丹沢大山地域が占める割合が近年大きくなってきている。

市町村別地域特性をみると事業所数の地域差は、従業員数の場合と同様に昭和41年から平成13年にかけて人口増加率の高い都市化地域に集積したパターンとなっている。事業所数が100%以上の高い増加率が見られるのは、都市化地域にある秦野市、厚木市、伊勢原市、愛川町で、その中で厚木市(446.9%)が極めて高い増加率を示している。一方、100%以下の増加率がみられるのは山間地域で、松田町、清川村、山北町、津久井町である。その中で最も低い増加率であるのは山北町(21.5%)である。従業員数は、事業所数の増加率が高かった秦野市、厚木市、伊勢原市、愛川町の都市化地域で300%～400%台の増加がみられる。続いて増加率が高かったのは、山間地域の清川村(287.7%)と津久井町(173.2%)である。残り松田町、山北町の増加率は、50%以下で土地条件のきびしい地域である。

(2) 工業

平成15年の工業統計による工業事業所数及び従業員数・製造品出荷額等についてみると、丹沢大山地域の県全体に占める割合は、事業所数が10.6%、従業員数が12.1%、製造品出荷額等で8.8%となっている。丹沢大山地域の昭和41年から平成15年のデータの推移をみると、事業所数が150ヶ所を超える地域は、秦野市、厚木市、伊勢原市、愛川町である。

事業所数の推移は、松田町を除く全ての地域で増加している。その内、厚木市(264.0%)と伊勢原市(295.7%)が高い増加率を示している。続いて高い増加率は、清川村(133.3%)と秦野市(81.9%)である。事業所数の順位を市町村別で比較すると、昭和41年に第1位であった秦野市(166カ所)が平成15年には第2位となり、代わって厚木市(404ヶ所)が第1位となっている。平成15年の従業員数が15,000人を超えるのは、秦野市と厚木市である。また製造品出荷額等の金額が2,000億円を超えるのは、秦野市と厚木市そして工業団地がある愛川町である。

(3) 商業

卸売・小売業の事業所数は、昭和45年から平成14年の推移データを見ると丹沢大山地域平均では、61.1%の増加となっている。これは県全体の13.4%と比較して極めて大きいといえる。増加は、都市化地域の秦野市、厚木市、伊勢原市、愛川町でみられ、最も増加率が高いのは厚木市(134.5%)であるが、その他の市町村は減少しており、その中で清川村(-23.5%)が最も低い。

従業員数は、丹沢大山地域平均では305.1%の増加となっている。これは県全体の107.4%と比べて高い。従業員数の多さでは、どの時期も厚木市が第一位で中心都市を形成していることがわかる。増加傾向をみると愛川町(437.7%)が最も高く、次に伊勢原市(416.5%)、厚木市(372.4%)の順となっている。最も低い増加率であるのは、松田町(19.7%)である。年間商品販売額も、同様の傾向にありすべて増加している。従業員数と同じ様に愛川町(3235%)が最も高く、松田町(157.8%)が最も低い増加率となっている。

(4) 農業

A. 総農家数・専業別農家数

昭和40年から平成12年の推移をみると、丹沢大山地域すべてで減少が見られ、県全体と同傾向である。総農家数の比較では、愛川町、清川村、津久井町が-60%台で、減少率が高い。最も低いのは伊勢原市(-39.6%)である。専業農家は、減少率が低いのは同じく伊勢原市(-50.6%)である。秦野市、厚木市、愛川町、清川村、津久井町では、-70～-80%台と高い減少率が見られる。第1種兼業農家の減少率はどこも平均的である。第2種兼業農家の減少率が、平均の-57.9%より低いのは、秦野市、厚木市、伊勢原市の3市である。

B. 経営耕地面積の推移

丹沢大山地域の経営耕地面積は、県全体の22.4%を占めている。その推移は農家数と同様の減少がみられる。県と比べると丹沢大山地域の合計面積は同じような減少率を示しているが、地目別では田が若干低く、樹園地は高いといえる。市町村単位でみると秦野市、厚木市、伊勢原市は、平成12年現在で約1,000haの経営耕地面積である。減少率が平均を超えているのは、厚木市、愛川町、清川村、津久井町である。地目別の推移で特徴的なのは、秦野市の樹園地面積の増加であり、反対に減少しているのは、厚木市、愛川町、山北町、津久井町である。

C. 農業就業人口

丹沢大山地域の農業就業人口は、全県でみると20%を占め、経営耕地面積の22.4%に比べ若干低いが同傾向といえる。男女別割合では、女性の人口比率が57.4%で全県比の54.8%より丹沢大山地域の方が高くなっている。

8市町村単位での地域比較をみると、経営耕地面積規模の場合と同様の傾向となっている。農業就業人口における男女比率では、女性の人口比率が60%を超えているのは、山間地域にある松田町と山北町、清川村である。

D. 農業産出額

丹沢大山地域の農業産出額は、全県でみると20%を占め、その割合は農業就業人口の場合と同じ値となっている。平成12年の総農家数は、24.4%となっている。その内訳では、丹沢大山地域が耕種と畜産ともほぼ同数であるのに対し、全県では耕種が約7割を占めている。

8市町村単位での地域比較をみると、農業産出額は秦野市、厚木市、伊勢原市、愛川町が300万円を超えた地域となっている。耕種の割合が大きいのは、厚木市、秦野市、山北町であり、畜産では愛川町、清川村である。

E. 耕作放棄地の推移

耕作放棄地は、昭和50年より農林業センサスに新たに加えられた調査項目で、農家の保有する土地のうち、過去1年以上作付けしなかった土地、今後も耕作する意志のない土地のことである。自給的な兼業化の進行や営農環境の変化、山麓集落での鳥獣被害など様々な要因が複合的に作用し、耕作放棄地が生まれ経営耕地の減少となっている。

本県の耕作放棄地は、年を追うごとに増加している。昭和50年の県全体では、耕作放棄地の面積は114,819a、保有農家数では6,500戸であったが、平成12年ではそ

れぞれ 144,538a と 6,745 戸であり増加している。同じく昭和 50 年の丹沢大山地域では、23,949a と 1,408 戸で、平成 12 年では 42,434a と 2,059 戸となっている。昭和 50 年での丹沢大山地域の県全体に占める割合では、面積で 20.9%、保有農家数では 21.7%、これが 25 年後の平成 12 年には、面積で 29.3%、保有農家数で 30.5%となっている。この間の推移は、特異な昭和 55 年を除くと、面積、戸数とも 3 割程度を丹沢大山地域が占めており、2 割程度を占有する経営耕地面積や農家数の割合と比較すると大きい値といえる。

次に、8 市町村別に推移を概観する。人口規模、人口増加率とも最大の厚木市は、他の市町村に比べ激しく変動し推移している。またその規模も大きい。秦野市は、面積、農家数とも右肩上がりに耕作放棄地が増加し規模も大きい。伊勢原市と他の 5 町村は、ほぼ同傾向で推移し、昭和 55 年以降は増加傾向にある。

(5) 森林・林業

A. 森林の現状

県の森林面積は 95,276ha で、県土の 39%を占めており林野率は 39%であり、県民 1 人当りの森林面積では 109.7m²、また森林 1ha 当りの人口では 91.2 人である。森林面積のうち国有林を除いた民有林（県有林、公有林、私有林）の面積は、84,415ha で、全森林の 88.6%を占めている。それに対し丹沢大山地域の森林面積は、51,326 ha であり県全体の 53.9%を占めている。林野率は 69%で大きく、したがって 1 人当りの森林面積は 867.8m²、森林 1ha 当りの人口では 11.5 人である。そのうち国有林は、7,912 ha (15.4%) で民有林は、43,418 ha (84.6%) である。

市町村別では、森林面積が極めて大きいのは山北町と津久井町であり、林野率が 70%を超えるのは松田町、山北町、清川村、津久井町である。林野率が特に低いのは厚木市と伊勢原市であり、森林 1ha 当りの人口は 40 人を超えている。土地所有では、国有林が大きいのは山北町である。県有林が大きいのは松田町と山北町、清川村である。財産区有林の規模では津久井町が際立っている。丹沢大山地域での民有林の林種別面積割合は県の比率とほぼ同じで、人工林が 37.7%、天然林が 58.4%である。その平均値を超えるのは、人工林では秦野市、伊勢原市、松田町、津久井町で、天然林では厚木市と山北町である。

B. 林家数の推移

県全体の総林家数は、平成 12 年 9,032 戸で昭和 55 年と比較すると増加している。ただし農家林家数は減少し、それを上回る数で非農家林家数が増加している。一方、丹沢大山地域の総林家数の方は、平成 12 年現在 1,420 戸で逆に年々減少している。したがって、県全体に占める割合は、20 年前では 24.8%、10 年前では 22.6%、平成 12 年には 15.7%と年を追うごとに小さくなっている。

市町村別の総林家数の推移をみると、前半の 10 年間では松田町 (20.3%) が増加し、秦野市、伊勢原市、山北町が微増し、他の市町村は減少している。後半の 10 年間では、愛川町 (31.5%) の増加が際立っており、他の市町村は減少している。中でも秦野市 (-55.2%) は、総林家数が半減している。その要因は、農家林家数の減少にある。平成 12 年現在の総林家数の規模を地域比較すると、

明確に都市化地域と山間地域とに区分されている。また農家林家数と非農家林家数の 20 年間の推移をみると、農家林家数が大きく減少しているのは、秦野市、厚木市、伊勢原市、清川村、津久井町である。非農家林家数が増大しているのは、清川村と愛川町、津久井町である。

(6) 観光と観光資源

A. 観光動向

昭和 59 年 (1984 年) から平成 15 年 (2003 年) での観光客動向を分析した。丹沢大山地域には、1200 万人以上の観光客が訪れ、宿泊客は 60 万人、日帰り客は 1000 万人を超えている。全盛期では、1300 万人を超える観光客が訪れ、宿泊客も 80 万人を超えた年もあった。近年は、観光客数は概ね横這いの状況であるが、宿泊客の減少が目につく。この期間での観光客増加率は、全体で 1.16 倍であるのに対して、宿泊客増加率は 0.9 に減少し、日帰り客は 1.16 倍で増加し、日帰り傾向での観光客が多い。厚木市、松田町、秦野市等での宿泊客の減少に対して、津久井町では、絶対数は少ないが、宿泊客の増加傾向がある。また、清川村は、宮ヶ瀬ダムの影響により、日帰り客の増加率が際立っている。

B. 観光資源

丹沢大山地域の 8 市町村別の観光資源等を整理した。自然、歴史文化、景観資源が多様に存在している。

5. まとめ

丹沢大山地域の 8 市町村での土地利用、人口、産業の実態と変化を既存の統計データにより解析した。地域は県土の約 3 割を占め、森林面積は約 7 割を占める山間地域を抱える一方で、南東から南にかけて都市化地域を抱え、都市化圧力が高まる地域でもある。1976 ~ 1997 年の土地利用変化では厚木市、秦野市、伊勢原市の都市化による宅地化が際立ち、農地、林地からの宅地化である。愛川町、津久井町、山北町、松田町、清川村等の山麓地域の町村でも林地の宅地化がみられる。

秦野市、厚木市、伊勢原市の中心都市が急激な都市化で形成され、それに近接する町村での人口増加もある一方で、山北町のような人口減少の山間地域もある。市街地化は、厚木市を除く他の市町村においては、地区外に通勤・通学するというベッドタウン的な都市化の進展が進んでいる。都市化の一方で、少子高齢化の傾向が顕著となっている。

産業の推移では、県平均に比較して丹沢大山地域での事業所、工場、商業の活性化傾向が顕著にあったが、こ

表 4. 市町村別観光客の推移 (増加率は 1984 年～2003 年)
神奈川県商業観光流通課資料を加工

市町村名	2003年観光客数(千人)	①観光客増加率	②宿泊客増加率	③日帰り客増加率
愛川町	916	0.97	0.83	0.98
伊勢原市	1,448	0.75	0.96	0.74
厚木市	2,206	1.08	0.66	1.1
山北町	1,674	1	1	1
松田町	526	1.14	0.63	1.25
秦野市	1,747	1.28	0.78	1.3
清川村	2,376	2.68	0.96	2.74
津久井町	959	0.9	1.23	0.87
地域全体	11,852	1.16	0.9	1.16

表 5. 市町村別の観光資源の概要（平成 17 年度県勢要覧に加筆）

	市町村 の花	市町村 の木	市町村 の鳥	観光資源等	姉妹都市・ 友好都市	
秦野市	ナデシコ アジサイ	サザンカ コブシ	ウグイス	名所・旧跡	弘法山公園、桜土手古墳公園、鶴巻の大ケヤキ	諏訪市（長野県） パサデナ市（ア メリカ）
				民族芸能	秦野ささら踊り、瓜生野盆踊り	
				特産・名産品	落花生、カーネーション、達磨飴、竹製品、丹沢 そば	
				祭	秦野丹沢まつり（4月）、秦野桜まつり（4月）、秦野 たばこ祭（9月）	
厚木市	サツキ	モミジ	ー	名所・旧跡	飯山観音、飯山・七沢・広沢寺・かぶと湯温泉、飯 山白山森林公園	ニューブリテン 市 （アメリカ） 揚州市（中国） 横手市（秋田県） 軍浦市（大韓民 国） 網走市（北海道）
				民族芸能	相模人形芝居（長谷座、林座）、飯山白龍太鼓、ささ ら踊り	
				特産・名産品	豚漬、鮎、いちご、盛升（地酒）、鮎最中、鮎せんべい	
				祭	あつぎ飯山桜まつり（4月）、あつぎ鮎まつり（8 月）、サマー・フェスティバル（8月）	
伊勢原市	キキョウ	シイ	ヤマドリ	名所・旧跡	大山山頂、日向薬師、あやめの里	ラミラダ市（ア メリカ） 茅野市（長野県）
				民族芸能	大山の飴倭舞、大山の能・狂言（薪能）	
				特産・名産品	大山こま、大山東漬、大山のきやらぶぎ、菊勇 （酒）、弓矢、とうふ料理	
				祭	三之宮比々多神社大祭（4月）、日向薬師大祭・神木 のぼり（4月）、観光道灌まつり（10月）	
松田町	コスモス	ナンテン	セグロ セキレイ	名所・旧跡	西平畑公園、寒田神社、寄神社	光町（千葉県）
				民族芸能	大名行列、寄祭囃子	
				特産・名産品	足柄茶、みかん、キウイ、鮎、ハーブ	
				祭	まつだ桜まつり（2月）、若葉まつり（5月）、観光ま つり（8月）	
山北町	ヤマブキ	ブナ	ヤマドリ	名所・旧跡	丹沢湖、河村城跡、酒水の滝、中川温泉	品川区（東京都）
				民族芸能	山北のお峯入り、世附の百万遍念仏、室生神社の 流鏝馬	
				特産・名産品	足柄茶、丹沢山（地酒）、丹沢まいたけ、みかん、 すっぽん加工品、みかんワイン	
				祭	酒水の滝祭り（7月）、丹沢湖花火大会（8月）、西丹 沢もみじ祭り（11月）	
愛川町	ツツジ	カエデ	カワセミ	名所・旧跡	八菅山と八菅神社、塩川の滝、三増合戦場跡	立科町（長野県）
				民族芸能	三増の獅子舞	
				特産・名産品	半原のネクタイ、中津の座敷ほうき、半原のぬい 糸、鮎	
				祭	八菅神社春の大祭（3月）、半僧坊春の大祭（4月）、 半原神社夏祭（7月）	
清川村	ミツバ ツツジ	イロハ モミジ	ウグイス	名所・旧跡	宮ヶ瀬湖、丹沢札掛のモミ・堂平のブナの原生林、 水の郷大噴水「虹の妖精」	
				民族芸能	青龍祭	
				特産・名産品	茶、美津峯焼（陶芸）、丹澤みそ、梅ワイン	
				祭	青龍祭（8月）、宮ヶ瀬ふるさとまつり（8月）、宮ヶ 瀬クリスマスみんなのつどい（12月）	
津久井町	ミツバ ツツジ	ヤマ モミジ	ウグイス	名所・旧跡	津久井湖、津久井城址山、清流道志川	トレイル市（カ ナダ）
				民族芸能	鳥屋の獅子舞、関の首長囃子、相州奇面太鼓	
				特産・名産品	津久井のうどん、かんこ焼、くみひも	
				祭	雲居寺の施餓鬼（4月）、中野神社祭礼（7月）、鳥屋 諏訪神社祭礼（8月）	

れも厚木市等の都市化地域に集中する傾向にあり、都市化地域と山間地域との格差ともいえる状況が生じつつある。農業の衰退傾向は山間地域の方が都市化地域よりも顕著であり、また、耕作放棄地の増加も進んでいる。森林地域である丹沢大山地域の林家数は多いものの、その数は減少傾向にあり、特に農家林家数の減少が秦野市、厚木市、伊勢原市地域で顕著であり、一方で、非農家林家数が清

川村、愛川町、津久井町で増加する傾向にあり、相続での森林所有の細分化も生じているといえる。

丹沢大山地域の観光客数は全盛期では 1300 万人を超える状況であったが、近年は 12000 万人程度での横ばい傾向にあり、かつ、宿泊客が減少し日帰り客が増加する傾向にあり、観光経済の構造に変化が生じてきている。